

財政状況等一覧表（平成20年度決算）

(単位:百万円)

団体名 栄村

標準税収入額等 A	普通交付税額 B	臨時財政対策 債発行可能額C	標準財政規模 A+B+C
319	1,659	89	2,067

1. 一般会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
一般会計	2,797	2,607	190	146	42	2,647	
就労センター特別会計	10	10	0	0	3	0	
一般会計等	2,806	2,616	190	146		2,647	

「一般会計等」の数値は、各会計間の繰入・繰出などを控除(純計)したものであることから、各会計間の合計額と一致しない項目がある。

2. 公営企業会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
簡易水道特別会計	104	102	2	2	21	527	312	
農業集落排水特別会計	28	28	0	0	20	101	87	
生活排水処理特別会計	47	46	1	1	12	277	165	
スキー場特別会計	71	68	3	3	4	25	25	
国民健康保険特別会計								
(事業勘定)	279	254	25	25	0	0	0	
(施設勘定)	160	129	31	31	0	0	0	
秋山診療所特別会計	10	7	3	3	0	0	0	
老人保険特別会計	45	44	1	1	0	0	0	
介護保険特別会計	307	295	12	12	0	0	0	
後期高齢者医療特別会計	28	28	0	0	0	0	0	
公営企業会計等 計				78		930	589	

- (注) 1. 法適用企業とは、地方公営企業法の全部又は一部を適用する公営企業である。
 2. 法適用企業会計以外の特別会計については「総収益」「総費用」「純損益」の欄に、それぞれ「歳入」「歳出」「形式収支」を表示している。
 3. 「資金剰余額/不足額(実質収支)」は、地方公共団体財政健全化法に基づき(ものであり、資金不足額がある場合には負数(～)で表示している。
 4. 「左のうち一般会計等繰入見込額」は、企業債(地方債)現在高のうち将来負担比率に算入される部分の金額である。

3. 関係する一部事務組合等の財政状況

(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
北信広域連合								
(一般会計)	240	236	4	6	16	0	0	
(高社寮特別会計)	117	108	9	8	4	0	0	
(千曲荘特別会計)	119	115	4	4	0	0	0	
(市町村圏特別会計)	13	11	2	2	0	0	0	
(公平委員会特別会計)	2	1	1	0	0	0	0	
(介護サービス事業)	2,036	1,929	107	108	118	533	32	
岳北広域行政組合	3,057	3,011	46	45	0	2,924	5	
長野県後期高齢者医療広域連合								
(一般会計)	1,862	1,719	143	142	21	0	0	
(後期高齢者医療事業会計)	191,254	184,180	7,074	7,074	2,282	0	0	
長野県市町村自治振興組合	152	150	2	2	0	0	0	
長野県市町村総合事務組合								
(一般会計)	8,481	9,412	69	69	1,400	0	0	
(非常勤職員公務災害補償特別会計)	26	24	2	2	17	0	0	
北信地域町村交通災害共済事務組合	46	32	14	8	0	0	0	
津南地域衛生施設組合	464	420	44	50	0	435	47	
一部事務組合等 計				7,520		3,892	84	

4. 地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況

(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は 正味財産	当該団体からの 出資金	当該団体からの 補助金	当該団体からの 貸付金	当該団体からの 債務保証に係る 債務残高	当該団体からの 損失補償に係る 債務残高	一般会計等 負担見込額	備考
(財)栄村振興公社	15	44	87	0	0	0	0	0	
(株)苗場山観光	0	24	8	0	0	0	0	0	
(有)栄村物産センター	0	13	5	0	0	0	0	0	
地方公社・第三セクター等 計			100	0	0	0	0	0	

(注) 損益計算書を作成していない社団・財団法人は「経常損益」の欄には当期正味財産増減額を表示している。

5. 充当可能基金の状況

(単位:百万円)

充当可能基金名	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A
財政調整基金	274	297	23
減債基金	1	1	0
その他充当可能基金	276	282	6
充当可能基金計	551	580	29

(注)「充当可能基金」とは、基金のうち地方債の償還等に充当可能な現金、預金、国債、地方債等の合計額をいい、貸付金及び不動産等を含まない。

6. 財政指標の状況

財政指標名	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A	早期健全化 基準	財政再生 基準	資金不足比率 (公営企業会計名)	平成19年度 決算 A	平成20年度 決算 B	差引 B-A
実質赤字比率	5.92	7.06	1.14	15.00	20.00	簡易水道特別会計	-	-	-
連結実質赤字比率	7.38	10.78	3.40	20.00	40.00	農業集落排水特別会計	-	-	-
実質公債費比率	19.7	20.0	0.3	25.0	35.0	生活排水処理特別会計	-	-	-
将来負担比率	78.6	63.3	15.3	350.0		スキー場特別会計	-	-	-
財政力指数	0.14	0.14	0.00						
経常収支比率	95.2	92.1	3.1						

(注) 1.「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「資金不足比率」は負数(～)で表示している。

2.「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」は、収支が黒字の場合には便宜的に当該黒字の比率を正数で表示している。

3.早期健全化基準に相当する「資金不足比率」の「経営健全化基準」は、公営競技を除き、一律 20%である(公営競技は0%)。

4.「早期健全化基準」及び「財政再生基準」は平成20年度決算における基準である。